

第7回 2025年デフリンピック大会に係る大会準備連携会議  
(議事概要)

1 開催日時

令和6年3月26日(火曜日) 11時00分から11時45分まで

2 開催場所

東京都庁第一本庁舎 42階北塔 特別会議室B

3 構成員等

○構成員

一般財団法人全日本ろうあ連盟	久松 三二	常任理事・事務局長
東京都	渡邊 知秀	生活文化スポーツ局次長
スポーツ庁	柿澤 雄二	参事官(国際担当)
公益財団法人日本オリンピック委員会	星 香里	常務理事
公益財団法人日本パラスポーツ協会	藤原 正樹	常務理事
弁護士	三好 豊	
公認会計士	中村友理香	

○事務局

一般財団法人全日本ろうあ連盟  
東京都

4 要旨

【挨拶】

○全日本ろうあ連盟 久松事務局長

- ・本日は、お忙しいところ、第7回2025年デフリンピック大会開催に係る大会準備連携会議にご出席いただき、感謝申し上げます。
- ・私から、一言、ご挨拶を申し上げます。
- ・12月の第6回会議では、大会規模(計画額)について皆様にご確認を頂いた。
- ・本日は、「東京2025デフリンピックまでのロードマップ」等について、順次説明をさせて頂く。
- ・皆様、本日も忌憚のないご意見よろしくお願ひしたい。
- ・それではこれより次第に基づき議事に入る。それでは、「東京2025デフリンピックまでのロードマップ」について説明させて頂く。

【資料説明】

## ○東京 2025 デフリンピック ロードマップ（東京都）

- ・事務局から「東京 2025 デフリンピックまでのロードマップ」について説明する。
- ・昨年度 2 月の連携会議でも、2023 年から大会までの 3 年間のロードマップということでご報告したが、今回は、来年度、再来年度と 2 年間のロードマップということでご報告する。
- ・2023 年度は、これまで大会開催基本計画を策定するなど、基礎的なプランニングを進めてきた。大会まで 2 年を切り、来年度は詳細プランニングフェーズ、再来年度は直前準備フェーズ、大会本番と進んでいく。
- ・まず大会運営についてであるが、来年度は、実地検証をしながら、競技・会場運営計画を作成、精査していくとともに、選手の宿泊・輸送計画や開閉会式など式典計画についても取りまとめていく。
- ・また、大会期間中の運営の核となる場であり、選手同士の交流なども行うことを予定しているデフリンピックスクエアについても計画を作成し、大会本番につなげていく。
- ・大会運営を支えるボランティアについては、大会の 1 年前となる 2024 年 11 月頃を目途に募集を開始していきたい。
- ・次に財政計画だが、今年度 12 月に公表した大会規模（計画額）を精査するとともに、寄附・協賛の募集を先日開始したところであり、より多くの方に応援していただき、みんなで創っていく大会としていきたい。
- ・最後にレガシーの主な取組についてだが、大会を一過性のもので終わらせるのではなく、共生社会の実現につなげていくため、ユニバーサルコミュニケーションの促進、国際手話人材の裾野拡大に向けた取組、子供参画の取組、気運醸成の取組を進めていく。
- ・こうした取組を来年度進め、再来年度の大会直前の準備や大会本番につなげ、大会を成功させるとともに、インクルーシブな街・東京の実現に貢献できるよう取り組んでいきたい。
- ・なお、資料に来年度の東京都スポーツ文化事業団のデフリンピック準備運営本部における事業計画案及び全日本ろうあ連盟のデフリンピック運営委員会における事業計画案を参考に添付しているため、ご確認いただきたい。

## ○東京 2025 デフリンピックに係る寄附・協賛について（東京都スポーツ文化事業団）

- ・前回の準備連携会議において大会計画額を示し、そのなかで収入確保策としての寄附・協賛の概要をご説明したところ。
- ・この計画を踏まえ、事業団においても、多くの人々に大会の趣旨にご賛同いただきながら大会を創っていきたいと考え、3 月 22 日から寄附・協賛の募集を開始している。
- ・まず、寄附について、銀行振込による受付は、22 日から開始しているが、クラウドファンディングについては、今後開始するものとしており、準備が整い次第、詳細をホームページにてお知らせしていく。

- ・協賛については、大会全体だけでなく、各競技への支援も募るなど企業等のニーズに合わせて参画しやすいよう、大会全体をサポートする「トータルサポートメンバー」と特定の競技をサポートする「ゲームズサポートメンバー」の2つのカテゴリを用意し、企業等からの申込みを受け付けている。
- ・なお、寄附・協賛の募集を始めるにあたっては、公平性・透明性を確保していくため、寄附・協賛の目的や条件等を明記した要綱を、事業団のホームページにて公表のうえ、募集活動を実施している。
- ・大会の成功に向け、みなさんで力をあわせて大会を創っていきましょう。引き続きご支援・ご協力のほどお願いしたい。

#### ○デフリンピック運営委員会における取組（デフリンピック運営委員会）

- ・デフリンピック・フェスティバルについて報告させていただく。
- ・デフリンピック・フェスティバルの進捗状況について説明する。
- ・2023年度に実施するデフリンピックの気運醸成に資する取組に対し、全国8ブロックで、各1か所実施として、10万円を限度として助成している。
- ・助成要件、対象経費等については、第3回運営委員会で報告済みであるが、対象とする経費は、諸謝金、旅費、借損料、印刷製本費、消耗品費、通信運搬費、雑役務費、保険料、委託料である。
- ・2023年度に実施した取組に対する決算状況は、全取組が終了したのち、次回運営委員会にて報告予定である。
- ・第3回運営委員会で報告した開催済は、北海道ブロック（札幌）、東海ブロック（静岡）、九州ブロック（福岡）である。東北ブロック（福島）は第3回運営委員会以降に開催したため、ここで報告する。
- ・福島では11/12に福島県との共催で開催。小学生32名参加。いわきFC、日本ろう者サッカー協会、日本ブラインドサッカー協会の協力を得て、デフサッカー体験、ブラインドサッカー体験、簡単手話体験を行い、障害のある選手たちやいわきFCの選手との交流を通して、デフリンピック認知度向上や共生社会について考える機会となった。
- ・申請承認済みは、関東ブロック（神奈川県）、中国・四国ブロック（鳥取県）である。なお、北信越ブロック（石川県）は開催の方向で調整中とのことであり、状況を共有し、助言を行っていく。
- ・また、デフリンピック・フェスティバルの報告をもとに分析を行い、来年度の気運醸成事業の検討および策定に活かしていく。

#### ○「ビジョン2025 アクションブック」について（東京都）

- ・「ビジョン2025 アクションブック」について、説明する。
- ・令和5年2月に、世界陸上・デフリンピックを通じて都が目指すべき姿を「ビジョン2025」

として取りまとめた。今般、「ビジョン 2025」で掲げた「全ての人が輝くインクルーシブな街・東京」の実現に貢献するという目標に向かい、両大会を通じて取り組んでいく方向性や主な内容などをまとめた指針として、「ビジョン 2025 アクションブック」を公表した。

- ・世界陸上・デフリンピックのような国際スポーツ大会が有する価値や、「ビジョン 2025」策定の考え方、今般策定した「アクションブック」の理念等についてまとめている。
- ・「アクションブックのポイント」として、スポーツの力で東京の新たな未来を切り拓いていくための基本的な考え方である、「3つの Concept」と「Sports プロジェクト+10 の Action」について記載している。「3つの Concept」では、「東京 2020 大会のレガシーを継承・発展」させるとともに、「両大会一体となってウェルネスの向上や社会変革を推進」、「2025 年を機に、東京に新たなレガシーを創出」することを掲げている。
- ・続いて資料 2 枚目の「Sports プロジェクト」は、スポーツの価値を再認識する「押し Sports プロジェクト」として、「東京スポーツドック」、「Let's play it!」、「キッズアスリートプログラム」の 3 つの取組を中心に展開するもの。
- ・右側は、「10 の Action」の主な内容であり、「ビジョン 2025」における 5 つの柱の下に、様々な Action を設定した。
- ・例えば、「みんなが つながる」では、「大事な情報、伝える工夫」及び「デジタルで拓く東京の未来」として、ユニバーサルコミュニケーション技術の社会実装の促進などを、3 つ目の「こどもたちが 夢をみる」では、「2025 for キッズ」及び「2025 with キッズ」として、大会ロゴや大会エンブレムのデザインへの子供たちの参画などを、4 つ目の「未来へ つなぐ」では、「みんなで守る、みんなの環境」及び「共に生きる未来を創る」として、東京 2025 デフリンピック応援アンバサダー等を通じた共生社会の大切さの発信などを、それぞれ記載している。
- ・今後、この「アクションブック」を指針として様々な取組を推し進め、「全ての人が輝くインクルーシブな街・東京」の実現に貢献していく。

## 【意見交換】

### ○東京都 渡邊次長

- ・東京都は本年 1 月に「ビジョン 2025」の目標に向かって、世界陸上及びデフリンピックを通じて取り組んでいく方向性や、主な内容などをまとめた指針となる「ビジョン 2025 アクションブック」を策定した。都としても東京の発展や都民の参画のための取組を着実に実施していく。
- ・2 月には、東京 2025 デフリンピック、及び東京 2025 世界陸上の両大会に対して、政府として協力する旨の閣議了解をいただき感謝申し上げる。今後、様々な事柄に関してご相談申し上げます。よろしくお願ひしたい。
- ・また、東京都スポーツ文化事業団において、先週から寄附・協賛の募集を開始したが、

広く支援を募り、資金を確保していく必要がある。社会全体で支える大会を実現するためにも、事業団と連盟とで連携して取り組んでいただきたい。

- 本日の報告にあったロードマップにもあるとおり、来年度は大会開催の1年前となり、詳細な運営プランニングのフェーズに入る。都としても事業団への派遣職員を増強していく。引き続き、皆様のご助言、ご支援を頂きながら、円滑に準備運営を進めていきたい。ご協力をお願いします。

#### ○スポーツ庁 柿澤参事官

- 2025年に向けた大会運営や財政計画等のタイムラインをまとめたロードマップをまとめていただいた。関係者の皆様の尽力に感謝申し上げます。大会の開催を来年に控え、大会準備のギアが上がったと感じる。今回策定されたロードマップに基づき、引き続き着実に本番に向けた準備を進めていただきたい。
- 先月2月16日の閣議において、2025年デフリンピック競技大会について、政府として協力する旨の閣議了解を行った。スポーツ庁としても、今回の閣議了解を踏まえ、引き続き、東京都や全日本ろうあ連盟をはじめとする関係団体と緊密に連携しつつ、必要な支援・協力を行ってまいりたい。
- スポーツ庁においては、2025年デフリンピックでの日本人選手の活躍に向けて、今月から開始したデフ競技団体のナショナルトレーニングセンターの利活用をはじめとする、日常的・継続的な選手強化活動の支援に取り組むとともに、デフスポーツの普及・振興に向けて、スタートランプなど競技に必要な情報保障機器などを整備する事業の実施や、手話通訳者向けのデフスポーツマニュアルの作成等に取り組んでいるところ。
- また、先月、スポーツ庁委託事業であるアスリーチ事業の一環で、都内の学校に、デフ陸上の400mハードル日本記録保持者で、デフリンピックに4度出場された高田選手に来ていただき、実際にスタートランプも使いながら、子供たちに講義や実技指導等を行っていただいた。
- スポーツ庁としては、引き続き、こうした取組をより一層進め、デフリンピックの気運醸成やデフスポーツの普及・理解促進に繋げてまいりたい。また、関係省庁とも連携して、東京都や全日本ろうあ連盟の大会に向けた円滑な準備や開催に資するよう、しっかりとサポートしていきたい。

#### ○JOC 星常務理事

- 準備期間として残り一年半ほどということに迫ってきたと感じる。
- 開催都市としては東京都だが、このデフリンピックをきっかけにデフスポーツの振興や共生社会が進むことが重要だと考えるため、ムーブメントとしては全国に広まってほしい。そのため、全日本ろうあ連盟中心に開催されるデフリンピック・フェスティバルでの気運醸成は重要であり、このような取組を通して全国から応援していただくことが、ひいては協賛金などにも繋がっていくと考えるため、しっかりと取り組んでいただきたい。

い。

- ・JOC においても憧れられるアスリートの育成に取り組んでいるが、デフリンピックに出場するようなアスリートは全国のきこえないこどもたちにとって憧れとなる存在であり、よりアスリートの姿が目に触れるようにしていくことが重要である。
- ・いつ頃、2025 年デフリンピックに出場する選手が決定するのか。

○一般財団法人全日本ろうあ連盟

- ・過去の例をみると、代表選手の決定はオリンピックやパラリンピックとほぼ同様の手順で進む形となっている。
- ・現在パリオリンピックやパラリンピックに向けて全国の選手が決定しているという報告や報道があるが、デフリンピックについても同様に大会の3か月から4か月前に選手が決定することになるかと考える。
- ・各競技団体の選手選考を受け、派遣選手団の審査を経て、来年夏頃に代表選手が決定する予定である。

○JOC 星常務理事

- ・来年夏頃の代表選手決定の過程において、戦略的にアスリートの姿を全国に発信していくなど、競技団体とも連携して進めていただきたい。
- ・また、ボランティアについて募集が来年度後半から始まるということだが、ボランティアの方々の活動を通じて、より手話などが広まるとよいと考える。

○事務局（東京都）

- ・ボランティアについてはロードマップに記載のとおり、今年11月頃の募集開始をめざしており、現在規模など精査しているところである。
- ・また、ボランティアに採用された方々に対する研修についても、手話なども研修のなかに取り込んでいく必要があるかと考えているため、詳細について全日本ろうあ連盟及び東京都スポーツ文化事業団とも相談して進めていきたい。

○JPSA 藤原常務理事

- ・気運醸成について、東京都においても未だデフリンピックについて認知度が十分に広まっていないように見受けるため、JPSA としてもサポートし取り組んでいきたいと考える。
- ・寄附・協賛の募集に関して、東京都スポーツ文化事業団が実施するものなのか。

○東京都スポーツ文化事業団

- ・協賛制度については、東京都スポーツ文化事業団が代表し募集活動を実施していく。寄附については、従前より全日本ろうあ連盟がデフスポーツサポーター制度ということで、デフスポーツ自体の振興も含めた寄付を募集している。この部分はしっかり継続しつつ、東京2025デフリンピックの大会に対する寄付については、ろうあ連盟と密に連携しながら事業団で実施していく。

○三好弁護士

- ・東京2025デフリンピック大会情報サイトのホームページを拝見すると、寄付協賛のとこ

ろにたどり着くのがちょっとわかりにくい。ぜひ貴重な財源になり得るものだから、もっとアピールしてトップページに載せた方がいい。検討をいただければよろしいかなと思う。

○東京都スポーツ文化事業団

- ・ご指摘のとおり、わかりづらいというところがあるかと思う。連盟と共有して、できるだけトップページからアクセスしやすいようにバナー設定するなど工夫していきたい。

○中村公認会計士

- ・気運醸成活動を通じた周知を頑張っていて、企業をはじめ個人からも広い支援を得て、ぜひ寄付協賛がしっかりと集まり進むことを期待している。
- ・そのうえで、デフリンピックは、運営組織として単独の法人格を作っていないので、デフリンピックのために集めた寄付協賛の資金が、その事業自体に使われるよう、管理をしっかり行い、注意を払っていただきたいと思う。特に東京都スポーツ文化事業団は、事業を複数やっているかと思うので、そちらとの資金の区分も含め、しっかり行っていただきたいと思う。
- ・また気運醸成活動はぜひ SNS を利用いただき、広く周知をして、どんどん盛り上がっていければ嬉しいなと思う。

**【意見交換総括】**

○事務局

- ・本日、説明させていただいたロードマップなど、それぞれの案件について確認させていただいた。

○全日本ろうあ連盟 久松事務局長

- ・本日は、皆様から非常に貴重なご意見をいただいた。感謝申し上げます。引き続き大会の成功に向けて努力していきたい。これを持ちまして、会議を終了させていただく。皆様ご協力ありがとうございました。